

大学生の資格取得に関する意識調査報告

— 4 大学連携プロジェクトに基づく合同調査結果を踏まえて —

小山 悦司・曾我雅比兎*・趙 恩頡**

倉敷芸術科学大学国際教養学部

※ 岡山理科大学理学部

※※ 倉敷芸術科学大学大学院生

(2002年9月30日 受理)

I はじめに—調査の視点—

18歳人口の減少と、大学進学率が50%を超えるユニバーサル化を迎えつつある大学間の競争的環境の中で、就職状況の善し悪しは大学の評価を大きく左右する要因になっている。就職難を背景にして受験生の実学志向は強く、どのような資格を取得できるかが大学選択のポイントにもなっている。そこで、大学側は学生獲得の手段の一つとして、就職実績を向上させると同時に大学教育に付加価値をつけるために、学生の資格取得に向けて「資格支援センター」「キャリア開発センター」「エクステンションセンター」等の部署を設置して、積極的な支援活動を展開しつつある。こうした状況において、学生たちの資格取得に対する意識や態度あるいは実際の取り組み状況には、どのような傾向がみられるのであろうか。

今回調査対象となった4大学は、遠隔教育や資格取得支援に向けて、2000年度から相互に連携プロジェクトを推進している。このプロジェクトの一環として、資格取得に関するワークショップを設けて、学生の資格取得支援のあり方を検討してきた。一連の検討の過程で、まずもって学生の資格取得に対する意識や態度を把握することが先決であるとの方向に沿って、支援方策を検討する上での基礎資料を得るために合同調査を実施した。

本報告は、約7千名から得られた調査結果に基づきながら、大学生の資格取得に関する意識を分析することによって、大学側が支援方策を検討する上での指針を得ることを目的としている。なお、本稿では、資格取得支援に際して重要な手がかりとなる資格取得希望率（問13）と、資格の知名度・認知度（問14）を中心に報告する。

II 調査の概要

(1) 調査目的

大学間連携プロジェクトを推進している4大学の学生を対象にして、職業選択への展望、資格・免許取得に関する意識・関心等を明らかにすることにより、大学教育の一層の充実を図ることを目的とする。

(2) 調査項目（主要項目）

1. 大学進学 of 動機 2. 卒業後の進路 3. 資格取得の動機
 4. 取得を希望する資格の種類 5. 資格の知名度 6. 資格取得に向けての取り組み
 7. 資格に関する情報提供 8. 資格講座の提供方法

(3) 回収状況：学部学生

a 総在籍者数：12,985名 b 有効回答数：6,956名 代表率：b/a=54.1%

表1 有効回答数の内訳

A大学	社会学部	471	保健科学部	465	社会福祉学部	1,101	2,037
B大学	社会福祉学部	599	保健科学部	367	—		966
C大学	芸術学部	275	産業科学技術学部	434	国際教養学部	236	945
D大学	理学部	1,336	工学部	1,158	総合情報学部	514	3,008
総 計							6,956

表2 学年次別回答数

所属大学	1年次	2年次	3年次	4年次	総 計
A大学	613	702	369	313	1,997
B大学	288	355	301	9	953
C大学	234	259	229	223	945
D大学	1,061	790	1,057	49	2,957
総 計	2,196	2,106	1,956	594	6,852

表3 性別回答数

()内は%

所属大学	女子	男子	総 計
A大学	951 (48.2)	1,022 (51.8)	1,973
B大学	518 (54.9)	425 (45.1)	943
C大学	291 (30.1)	650 (69.1)	941
D大学	526 (17.9)	2,421 (82.1)	2,947
総 計	2,286 (33.6)	4,518 (66.4)	6,804

(4) 調査実施方法等

調査の基本的な立案・実施・集計は、岡山理科大学理学部基礎理学科・科学教育学研究室（代表：曾我雅比兒）が中心となって担当した。調査実施期間は、2002年1月9日から22日までの2週間で、4大学の教務関係部署を窓口として、当該学部・学科の必修授業等を利用して調査票を配布・記入・回収した。

Ⅲ 調査結果

1. 就職に対する意識

(1) 卒業後の進路：卒業後、進路をどう考えていますか？

卒業後の進路は表4から明らかなように、全体的にみると就職を約7割が希望している。系統別にみれば医療保健系が90%を超えているのに対して、芸術系は50%程度と就職に対する意識にかなりの差異がみられる。大学院等への進学希望は、理学系が20%を超えているが、逆に医療保健系は進学希望は3.7%と少ない。また、芸術系はフリーター希望が他の系統に比較して4.4%とやや高く、未定も約3割近くに達している。

表4 卒業後の進路

系統別	進学	就職	フリーター	未定	その他	総計
理学系	22.6%	62.7%	0.9%	12.5%	1.3%	100.0%
工学系	9.5%	76.9%	1.7%	11.4%	0.3%	100.0%
医療保健系	3.7%	90.5%	0.5%	5.1%	0.2%	100.0%
福祉系	9.9%	77.4%	1.2%	10.9%	0.5%	100.0%
芸術系	12.4%	49.6%	4.4%	27.7%	5.8%	100.0%
社会・学際系	11.7%	65.9%	3.6%	16.7%	2.0%	100.0%
総合系(理系)	10.3%	74.9%	0.7%	13.5%	0.7%	100.0%
総計	11.9%	73.4%	1.5%	12.2%	1.0%	100.0%

(2) 卒業時の就職状況予測：卒業時の就職状況は、どのようになっていると思いますか？

卒業時の就職状況については、系統別に差異はほとんどみられず、「悪くなっている」と悲観的な見方をする学生が全体で6割近くを占めている。敢えて指摘すれば、医療保健系が特に厳しい見方をしており、理学系がやや楽観的な傾向を示している。

表5 卒業時の就職状況予測

系統別	良くなっている	今と変わらない	悪くなっている	総計
理学系	8.5%	38.3%	53.3%	100.0%
工学系	5.6%	37.7%	56.7%	100.0%
医療保健系	2.3%	33.5%	64.3%	100.0%
福祉系	3.8%	38.1%	58.1%	100.0%
芸術系	7.7%	34.1%	58.2%	100.0%
総合・学際系(文系)	7.1%	39.8%	53.1%	100.0%
総合・学際系(理系)	5.0%	36.7%	58.3%	100.0%
総計	5.5%	37.3%	57.2%	100.0%

(3) 資格取得の希望：在学中に資格を取得したいですか？

全体で8割前後の学生が資格の取得を希望しており、大学側からの適切なサポートが望まれる。系統別にみると、福祉系での取得希望が90%を上回っているが、医療保健系では卒業時に看護師の免許等が取得できることと、通常の授業に精一杯で資格取得のための時間的な余裕が少ないことなどから70%程度にとどまっている。

表6 資格取得の希望

系統別	はい	いいえ	総計
理学系	82.9%	17.1%	100.0%
工学系	82.5%	17.5%	100.0%
医療保健系	72.0%	28.0%	100.0%
福祉系	92.4%	7.6%	100.0%
芸術系	76.0%	24.0%	100.0%
総合・学際系（文系）	67.7%	32.3%	100.0%
総合・学際系（理系）	81.7%	18.3%	100.0%
総 計	81.8%	18.2%	100.0%

2. 大学別にみた資格取得希望率

(1) 取得希望率ベスト10（4大学全体）

4大学全体として取得希望率の高い順にみると、企業等で情報化・国際化への対応が積極的に求められていることもあって、IT関連の「パソコン検定」「基本情報技術者」と、今や国際共通語になりつつある英語関連の「TOEIC」「英語検定」が上位を占めている。

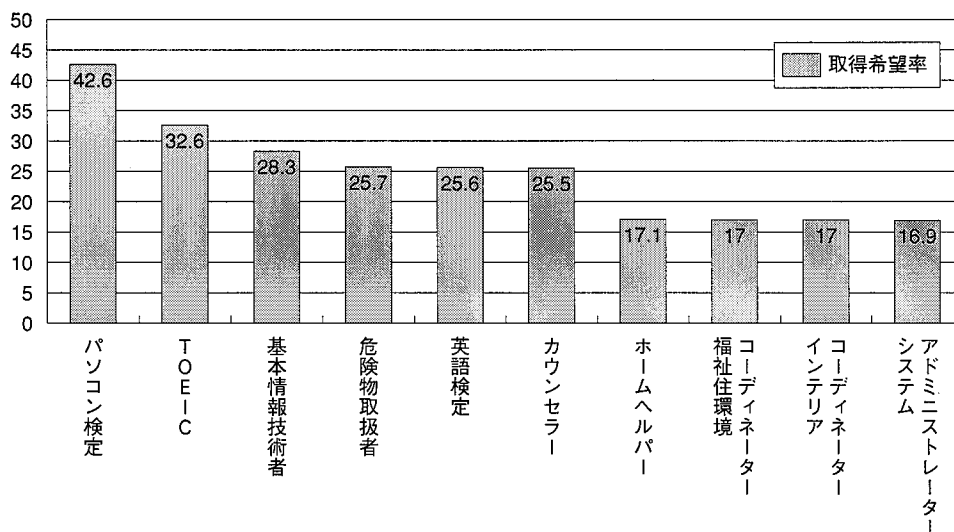


図1 取得希望率（ベスト10）

(2) 取得希望率の大学別分析

① A大学

最も取得希望率の高い資格が「パソコン検定」の47.1%であり、この数値は4大学全体としても最高値を示している。従来も資格取得に向けて、エクステンションセンター等によって支援がなされているが、さらに重点的かつ全学的な取り組みが求められているといえよう。「カウンセラー」「ホームヘルパー」の資格が上位を占める傾向は、医療・福祉系学部に通じているが、A大学に特徴的な傾向として、「レクリエーション・インストラクター」と「衛生検査技師」の比率が他大学に比較して高いことが指摘できよう。

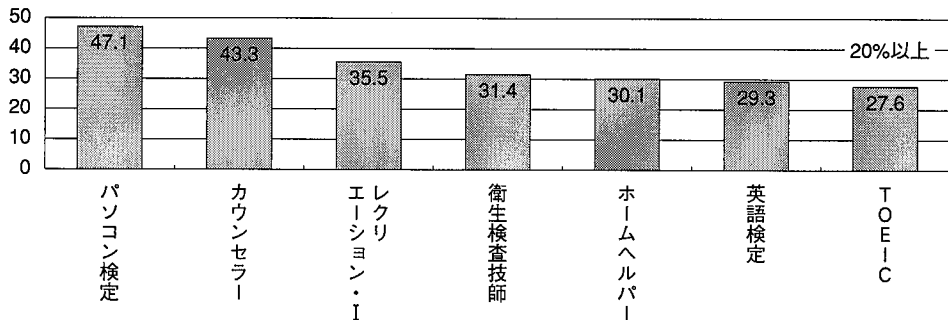


図2 A大学の取得希望率 (20%以上)

② B大学

医療・福祉系学部から構成されるB大学では、A大学の場合と同様に「基本情報技術者」「ホームヘルパー」の比率が高い。また、最も取得希望率の高い資格は、A大学と同様「パソコン検定」である。B大学に特徴的な傾向として、「福祉住環境コーディネーター」の比率が36.7%と3分の1以上の学生が希望していることから、大学側の積極的な支援が求められている。

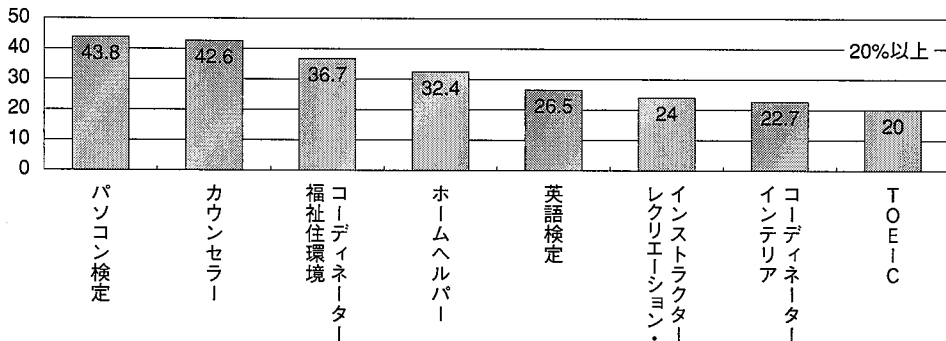


図3 B大学の取得希望率 (20%以上)

③ C大学

芸術学部特有の傾向として、「色彩検定」「CG検定」の取得希望者の比率が他学部と比較して高い。また、理工系学部の産業科学技術学部では、D大学の場合と同様に「基本情報技術者」「パソコン検定」の比率が高い。なお、英語関連の「TOEIC」「英語検定」を希望する率は、他の3大学に比べて低い傾向を示している。

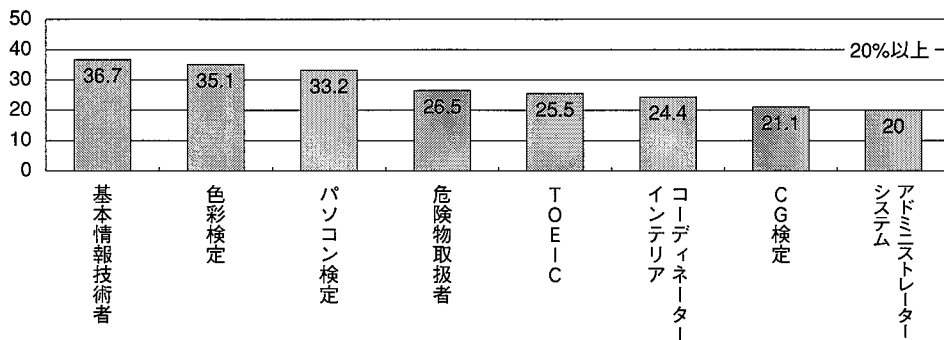


図4 C大学の取得希望率 (20%以上)

④ D大学

取得希望率の高い順にみると、他の資格と比較して4割前後と高い希望率を示す資格が「TOEIC」「パソコン検定」「基本情報技術者」「危険物取扱者」である。特に、理工系学部の特徴として「危険物取扱者」の希望率が高い傾向を示している。このような資格取得に対しては、大学側からの積極的な支援体制が求められているといえよう。

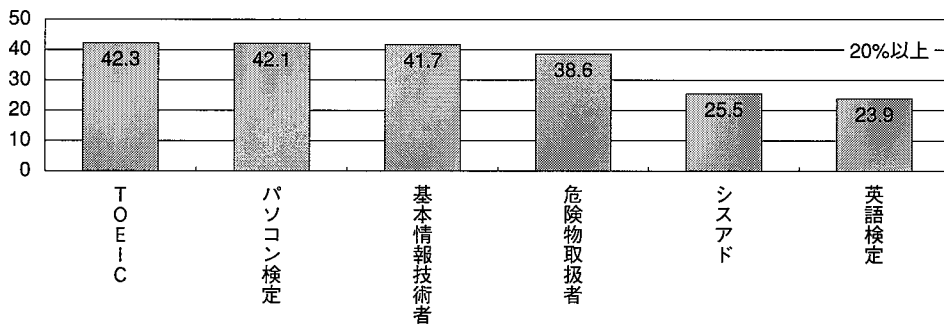


図5 D大学の取得希望率 (20%以上)

3. 大学別にみた資格の知名度

(1) 知名度ベスト10 (4大学全体)

資格の知名度に関する以下の考察は、問14の「下記の資格 (計49種類:省略) の中で、そ

の内容を少しでも知っているものすべてに○をつけてください。」の回答結果の分析に基づいている。

4大学全体を通して、唯一過半数を超えている資格が「英語検定 (61.2%)」であって、最も知名度の高い資格といえる。また、回答者に占める理工学系の比率が高いことから、「危険物取扱者」が2位に位置している。知名度の上位に、英語関連、情報関連、福祉関連の資格が占める中で、「気象予報士」と「簿記検定」は、知名度の割には取得希望率の低い資格といえよう。

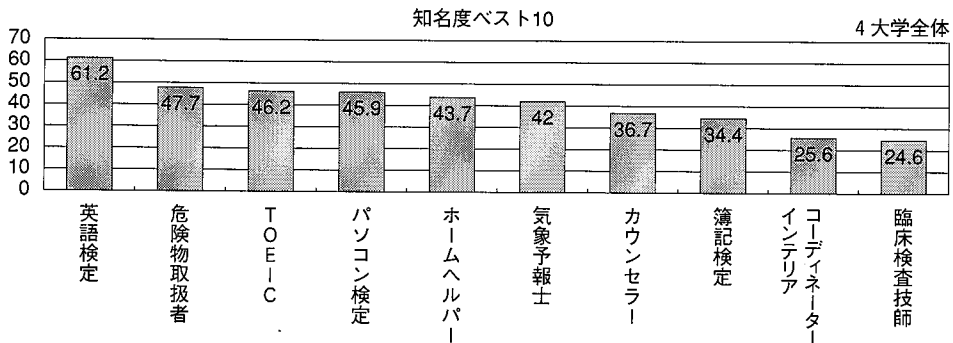


図6 資格の知名度 (4大学全体)

(2) 知名度の大学別分析

① A大学

B大学と同様に、資格に対する知名度は、D大学やC大学の場合に比べて全般に高い。こうした傾向の一因には、資格取得を重視して設置されたエクステンションセンターのこれまでに果たしてきた地道な活動が寄与しているものと思われる。

一方、「レクリエーション・インストラクター」の知名度が、5割近くに達していることも、他大学にはみられないA大学の特徴である。

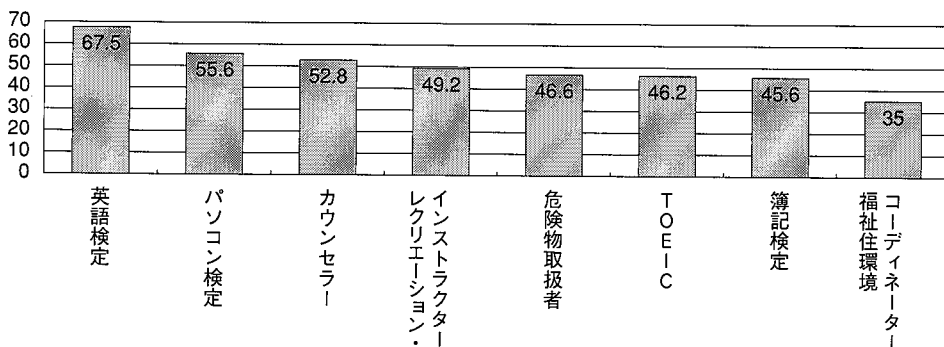


図7 A大学の資格に対する知名度 (30%以上)

② B大学

知名度が30%を超える資格は11種類と、他の3大学に比較して最も多い。特に1位の「英語検定」の知名度が68.2%と4大学中最も高いことから理解できるように、資格取得に対する学生の認知度や意識は全般に高いといえる。また、「カウンセラー」と「福祉住環境コーディネーター」の資格も4割を超えていることも特徴的である。

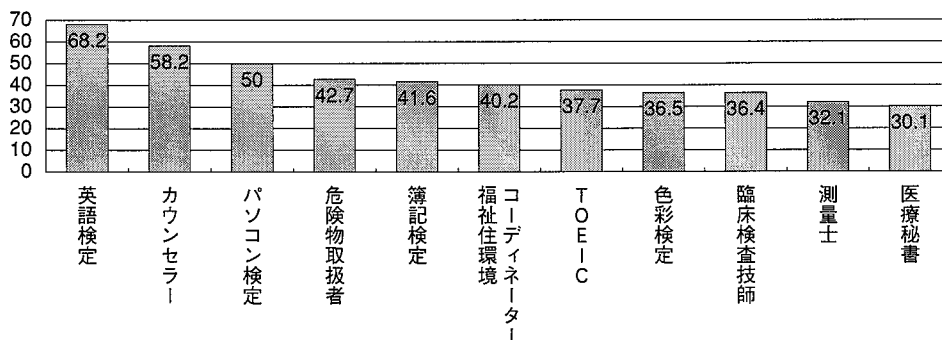


図8 B大学の資格に対する知名度 (30%以上)

③ C大学

知名度が50%を超える資格は1種類だけと、他の3大学に比較して最も少ない。D大学と同様に、資格に対する知名度がB大学やA大学の場合に比べて全般に低い。資格取得に関する独立したホームページの開設やメール等を活用した緻密な情報提供、さらには資格取得に対するオリエンテーションの徹底等が望まれる。

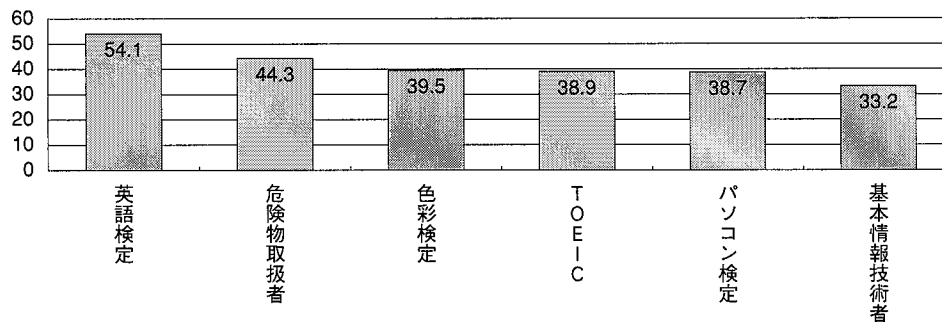


図9 C大学の資格に対する知名度 (30%以上)

④ D大学

知名度が30%を超える資格は4種類と、他の3大学に比較して最も少ない。しかも、上位1位と2位がいずれも英語関連が占めているのはD大学だけである。理工系学部を中心

に構成されているだけに、「パソコン・マルチメディア系」「設備・施工系」「通信・ネットワーク系」に関する資格が、もう少し上位を占めても良いのではなかろうか。こうした傾向はD大学に特徴的であり、資格に対する知名度が他大学に比べて全般に低いといえよう。資格取得支援センターの開設を契機にして、資格取得に対する学生の意識を高めるために、資格取得に関するより詳細な情報提供や、資格取得に対するオリエンテーションの徹底が望まれる。

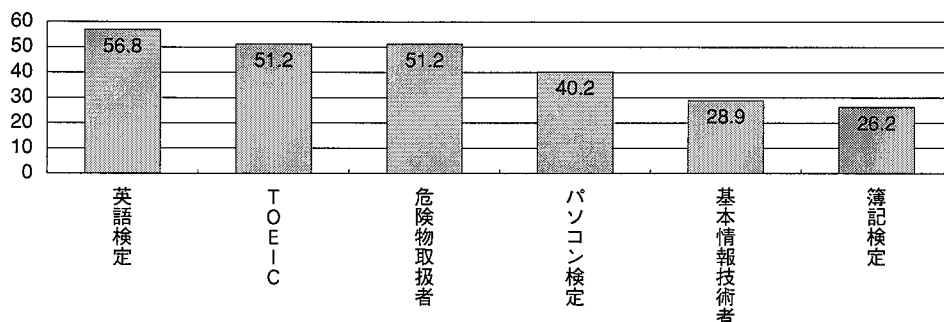


図10 D大学の資格に対する知名度 (30%以上)

4. 系統別にみた資格取得希望率

これまでは大学別に検討してきた。しかし、例えばC大学は芸術学部、産業科学技術学部、国際教養学部と特色ある3学部から構成されており、これを1大学としてまとめて分析することには無理があるともいえる。そこで、本節では4大学を構成する学部を系統別に計7つに分類して、各系統ごとに資格取得の希望にみられる傾向をみることにする。

理学系統及び工学系統では、両系統に共通した資格、すなわち「TOEIC」「基本情報技術者」「危険物取扱者」「パソコン検定」が上位4位までに位置している。

医療・保健系統及び福祉系統では、両系統に共通した資格、すなわち「カウンセラー」「パソコン検定」が上位2位までに位置し、「レクリエーションインストラクター」もそれぞれ3位と5位に位置している。

芸術系統では、「色彩検定」が73.5%と圧倒的に高く、次に「インテリア」と「CG」関係の資格が続いている。

社会・学際系統及び総合系統（理系）では、両系統に共通した資格、すなわち「パソコン検定」「TOEIC」「基本情報技術者」「英語検定」「危険物取扱者」が上位4位までに位置している。

全体的な傾向を見ると、語学関連（TOEICや英語検定）と情報関連（パソコン検定や基本情報技術者）が共通して希望が高く、系統ごとに特徴的な資格がそれほど見当たらなかった。

表5 系統別資格取得希望率（上位5位まで）

理学系統：理学部		工学系統：工学部	
TOEIC	47.6%	基本情報技術者	45.2%
パソコン検定	45.0	危険物取扱者	40.9
危険物取扱者	42.6	TOEIC	40.6
基本情報技術者	28.3	パソコン検定	39.0
英語検定	26.8	システムアドミニストレータ	29.2
医療・保健系統：保健科学部		福祉系統：社会福祉学部	
パソコン検定	37.8%	カウンセラー	52.2%
カウンセラー	32.4	パソコン検定	47.7
レクリエーションインストラクター	31.4	福祉住環境コーディネーター	43.1
TOEIC	26.2	ホームヘルパー	41.1
英語検定	23.6	レクリエーションインストラクター	35.7
芸術系統：芸術学部		社会・学際：社会学部、国際教養学部	
色彩検定	73.5%	パソコン検定	49.0%
インテリアコーディネーター	50.2	英語検定	33.5
パソコン検定	37.0	TOEIC	28.0
CG検定	26.1	基本情報技術者	25.9
インテリアCG検定	20.4	危険物取扱者	23.7
総合（理系）系統：産業科学技術学部等			
パソコン検定	42.6%		
TOEIC	32.6		
基本情報技術者	28.3		
危険物取扱者	25.7		
英語検定	25.6		

Ⅳ おわりに—資格取得支援に向けて—

学生に対する資格支援のあり方を検討する上で、まず重要なことは、学生の求めている資格を的確に把握することである。各大学ごとに取得希望率の高い資格に対しては、それぞれの大学で独自に対応すべきである。しかし、大学ごとの取得希望率はそれほど高くないが、4大学で合計すればかなり高い数値を示す資格に対しては、合同で資格支援に取り組み、大学間連携ならではの効果が得られるのではなからうか。学生の要望に対してよりきめ細かに対応することで、就職に強い大学という評価を得られるようになり、学生の満足度も高くなる。

一方、学生への資格取得に関する積極的な情報提供も不可欠である。今回の調査結果によれば、情報提供が比較的行き届いている大学と、今少し不十分な大学がみられた。学生の能力や適性に応じた資格取得支援を行うためには、インターネット等を活用してより正確でタイムリーな情報提供を行うことに加えて、資格取得に関するオリエンテーションを徹底することも重要な支援方策となろう。ただし、資格取得支援は、大学教育の付加価値を高めるためのもので

あり、目先の資格を短絡的に追い求めて大学教育の本質を見失ってはならないことはいうまでもない。

なお、資格取得支援のあり方をめぐる今後の検討課題として、①資格取得支援の意義を学部・学科の教育目標と関連づけて再確認すること、②企業等が大学卒業者に求める資格について種々の角度から分析すること、③現時点では学生や企業等の注目度は低いですが、将来は需要の高まることが予想される資格を分析すること、等が挙げられる。これらの課題については、機会を改めて検討したい。

《付記》本調査は、4大学連携プロジェクトに基づいており、今回は筆者らの分担した分析結果の一部のみを報告した。調査全体の分析結果については、調査報告書として取りまとめる予定である。

A Survey on Consciousness of University Students for Getting License or Qualifications

— Based on the four Universities Partnership Project —

Etsuji KOYAMA, Masahiko SOGA[※], Onketsu CHOU^{※※}

College of Liberal Arts and Science for International Studies

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

※ Okayama University of Science

※※ Graduate School of Kurashiki University of Science and the Arts

(Received September 30, 2002)

Nowadays since eighteen-years-old population are on the decrease and on the ratio of students who go on to universities are on the increase, competition among universities intensify to invite new students. A candidate for a university demand to get some advantageous license or qualifications for getting job opportunities while they are students. Universities should have a distinctive feature respectively.

We set up the four universities partnership project at 2000 year and search for support systems of getting license or qualifications as one of the project program.

The purpose of this study is to analyze some results of the survey about seven thousand students of the four universities and obtain some suggestions for the support systems which based on possibilities of the four universities partnership project.